

| 令和4年度第4回奈良市地域福祉推進会議議事要録 | | | |
|--|--------------------------|---|-----------|
| 開催日時 | 令和5年3月23日(木)午後1時から午後3時まで | | |
| 開催場所 | 奈良市役所中央棟地下1階会議室 | | |
| 出席者 | 委員 | 山下委員長、今西委員、安藤委員、森山委員、安井委員、木村委員、田中委員、松村委員、塩山委員、若野委員、國分委員、【計11人出席】(作間委員、植畑委員、室崎委員、西村委員、中村委員、中川委員欠席) | |
| | 事務局 | 【福祉部】福祉部長、福祉部次長、福祉政策課課長、障がい福祉課課長、保護課課長、長寿福祉課課長 他 奈良市社会福祉協議会 課長 | |
| 開催形態 | 公開(傍聴人 1人) | 担当課 | 福祉部 福祉政策課 |
| 議題 又は 案件 | 福祉センターのあり方について | | |
| 議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等 | | | |
| 【事務局からの説明】 ・老人福祉センターの現状と高齢者を取り巻く課題について ・老人福祉センターの事業について(総合相談・介護予防・社会参加・出会いつながり) | | | |
| 【委員からの主な意見】 高齢者は増えているが利用者数は減っているため、見直しも必要であると考え。今ではお風呂も限定的な市民しか使用していない。今後センターをどのように活用していくのか、求められることは何かを考えていかなければならない。 | | | |
| 東福祉センターを利用しているが、コロナになって閑散としている。スマホ教室や体操教室など工夫はされているが、人が集まらない。一方、巷で女性ばかりの30分フィットネスは人気があり、多くの方が並ばれている。 | | | |
| 今は多種多様な趣味があり、高齢になったとしても老人福祉センターへ行くということはありません。アクティビティがあっても、フィットネスクラブに行かなくても老人福祉センターで友だちと会えるような場所にするなど。立地はどうか。車でしか行けない所なのか。福祉センターまでの交通手段があれば近づきやすくなるのではないかと感じている。 | | | |
| オレンジカフェにおいて、年に3・4回、本格的なお茶会をしている。お茶の専門家のOBが主催となり高齢者に配慮したお茶会をされている。大勢の方が参加され、楽しみにされている。求めているのは本物ではないかと感じる。多様化、個別化、専門性など、自分自身を高めるところに身を置きたいと今の高齢者は思っているのではないかと実感している。 | | | |
| 健康増進や教養などのアクティビティーコンテンツについては、民間のサービスがある。銭湯やフィットネスなど民間にサービスがあるものには追い付かなくて良いのではないかと感じている。 | | | |

福祉センターの役割としては、高齢者のニーズはあるけれどサービスがないものを担うべきではないか。定年後、マネージメント機能がなくなってきて、自分自身でプランニングすることが難しい。地域の高齢者の健康増進に生命保険会社を参入させるという考え方もある。医療や介護が必要な高齢者が減少すれば、生命保険会社にとっても保険金の支払いが減少し利益になる。民間企業が運営に参加することで、将来的には行政の予算がなくても老人福祉センターを自立させていくためのビジョンを描いていく。

高齢者の方で生活困窮に陥っている方が増えている。困窮している方や無年金者、本来収入がない方が老人福祉センターで収入を得られるような活動があってもいいのではないかな。

また、山登りやカメラサークルなど様々な活動をされている高齢者もいらっしゃる。一方、そういうところに行けない方が老人福祉センターに行っているというイメージもない。福祉センターの情報が伝わっていないのではないかなと思う。しかし、実際行くとなるとこの年齢になってまた新しい人付き合いは億劫となる。そこに一押しがないと福祉センターに行かないと思う。おひとり様でも使える場があったらいいと思う。

今は老人福祉センターとは言わず、福祉センターと言う。子育て支援にも使われている。昭和43年にできたころは介護施設がほとんどなかった。福祉センターに来ている人は何を楽しみに来られているのか。これからどうしていくか知恵を市に提供して考えていかなければならないと感じている。居場所がない人がたくさんいるので、福祉センターに来ませんかと誘うことで楽しい空間ができるのではないかな。

誰をターゲットにしているのか。スーパーやデパートで時間を潰している方、図書館で椅子の奪い合い、つまり行き場所がないことが共通である。だからといって福祉センターに行こうという道筋もできていない。選択できるメニュー、多様化、個別化したプログラムがあるのか。民間委託や包括支援センターなど専門的なところに任せるという手もある。入浴事業はひとり暮らしの高齢者の安否確認になるので大事であると思うが、どう折り合いをつけるか。トイレは全て洋式になっているのか。和式は使えないトイレであると考えてほしい。利用されているのなら赤字であっても継続することが公共施設の役割だと思う。要支援でも要介護でもない方に対して健康体操をしてほしい。民間がしているプログラムの良いものを取り入れてほしい。

西福祉センターを使用している。特に女性がグループで来られて活動したり、お風呂を利用したりされている。単独よりグループで利用されている方が多いと感じるので、そこを活かす方法はないのかと考える。10 数年前はお昼ご飯を提供していた。お風呂に入って食事をして帰られていたと思うが、今はコロナもあり食事ができなくなっている。一人暮らしの高齢者の方にとって食事が提供されることはとても有難いと思う。設置目的として対象が高齢者ということだが、年齢を外すことができたならもっと多様に使用できるのではないかと考える。

世代間交流に興味がある。若い世代の方でお店を持っていなくてもマルシェとか活躍できる場を探されている。立派な施設があるのなら、若い世代の方が高齢者の方にお昼ご飯を作って安く売るなどはどうか。人が集まって、いろんな人の居場所になって交流ができてくるのではないかな。

西福祉センターでは子どもも多く利用されている。子育て相談もされている。悩みを抱えているお母さんも多く、保育園などに子どもを預けることができない方の交流の場になればと思う。

東福祉センターとボランティアセンターは隣接している。東福祉センターには大きな部屋があるが、年齢制限があることで使用が難しいと知った。若い人が集まることで、高齢の方も元気になるのではないかな。

地元で地域の公民館を閉めるとなるともめる。市民が求める最低限のサービスだから。障害者の総合福祉センターや高齢者の老人福祉センターは市民サービスの一環であると考えているので、お金がないから閉めるということには同意できない。また、実際、高齢者が囲碁・将棋・お風呂などの利用されている場所へ障がい者を受け入れることは可能なのかな。高齢者の方はびっくりされるし、電動車椅子にひかれてしまう可能性もある。指定管理者が潤沢に人員を割いて事故を防ぐことができるのかな。人件費が課題になってくる。老人福祉センターは市民の通常的なサービスであると考えているのなら統合したりするより、どのようなサービスを提供すべきか考えていく必要がある。

このセンターに行こうと思ったとき、老人福祉センターという名称は気に入らない。老人という意識を持っている方がどのくらいおられるのかな。時代のニーズを捉えていない。老人に対するサービスは介護保険法の施行により普及されてきた。老人福祉センターの老人に対して必要な福祉は何か。年齢層、テーマを踏まえたターゲットが不明瞭である。今のままだと箱ものだけが残って中身がなく形骸化していくのではないかな。ターゲットを絞ってリハビリテーションを行ったり、いくつになっても社会に貢献できるような取り組みなど、テーマを絞るのがよいのではないかな。

【委員長によるまとめ】

縦割りを超える発想に転換しなければならない。トイレは最低限整備する。また、生活支援コーディネーターと結びつかないと地域の生活拠点にはならない。お風呂が必要であるかどうか。たとえば、在宅でヘルパーを利用されている方がセンターでのお風呂を安心して利用できるなど。フレイル予防に取り組む。地域包括支援センターとの関係はどうあるべきか。今後継続して考えていく。